

福岡・夫婦殺害から間もなく25年 次女「わずかでも希望捨てない」

社会 | 速報 | 事件・事故・裁判 | 福岡 | 九州・沖縄

毎日新聞 | 2026/2/15 13:15 (最終更新 2/15 13:15) | 501文字



「2001年の事件の遺族です」と話しながら情報提供を呼びかける藤堂早苗さん。少しでも記憶をたどるきっかけになればとの思いで、「ティズニーシー」ができた年の事件です」と添えていた＝福岡市東区で2026年2月13日午後3時9分、川畑岳志撮影

写真一覧



囲み取材の終了後、藤堂早苗さんは「福岡を古里とし大切に思っています」と話し、童謡「故郷」を披露した＝福岡市東区で2026年2月13日午後4時7分、川畑岳志撮影

写真一覧

2001年2月に福岡市東区の民家で金丸金次郎さん(当時80歳)と妻愛子さん(同73歳)夫婦が殺害された事件は、未解決のまま間もなく25年がたつ。捜査本部がある東署の警察官や次女の藤堂早苗さん(70)らは13日夕、同区の商業施設でチラシを配って情報提供を呼びかけた。

事件は01年2月26日午後5時35分ごろ、東区若宮5の民家で、住人の金丸さん夫婦が遺体で見つかって発覚。司法解剖などから殺害されたのは17日午後11時ごろとされる。室内が荒らされており、県警は強盗殺人事件とみて捜査を続けている。

有力な情報には私費による懸賞金(上限250万円)が支払われる。しかし、この1年の情報提供は2件にとどまり、犯人特定には至っていない。

チラシを配り終えた後、藤堂さんは取材に「わずかでも希望を捨てないでいる。犯人が出てくるのを諦めてないと思えることで、犯人にプレッシャーをかけたい」と語った。

県警はこれまで延べ7万2000人の捜査員を投入してきた。東署の土谷武紀署長は「当時言えなかったこと、ささいなことでも構いません」と情報提供を呼びかけている。情報提供は東署(092・643・0110)。(川畑岳志)

福岡市東区の夫婦殺害25年

遺族「解決へ希望捨てない」

私費で懸賞金 情報提供呼びかけ

2001年2月に福岡市東区の民家で金丸金次郎さん(当時80歳)と妻幸子さん(同81歳)夫婦が殺害された事件は、未解決のまま間もなく25年がたつ。捜査本部がある東警の警察官や次女の藤堂早苗さん(70)らは13日夜、同区の商業施設でチラシを配って情報提供を呼びかけた。

事件は01年2月28日午後5時35分ごろ、東区若草5の民家で、住人の金丸さん夫婦が遺体で見つかった。捜査本部は同日午後11時ごろに捜査。室内が荒らされており、県警は強盗殺人事件とみて捜査を続けている。

有力な情報には私費による懸賞金(上限250万円)が支払われ、犯人特定には50万円が支払われ、至っていない。しかし、この1年、チラシを配り続けた



「2001年の事件の遺族です」と話しながら情報提供を呼びかける藤堂さん。少しでも記憶をたどるきっかけになればとの思いで「フェイス・トゥー」ができた事件です」と添えている。

後、藤堂さんは取材に「わずかでも希望を捨てないでいる。犯人が出てるのを諦めてない」と見せることで、犯人に「レッシュ」をかけた」と語った。

県警はこれまで延べ7万2000人の捜査員を投入してきた。東警の土谷武紀署長は「当時言えなかったこと、ささいなことでも構いません」と情報提供を呼びかけている。情報提供は東警(092・643・0110)。**【川畑雄志】**